

第21回

日本血液学会北陸地方会

プログラム

当番会長 山崎 義亀與

期 日 平成15年7月12日(土)午後2時より

会 場 石川県立中央病院健康教育館
(金沢市鞍月東2丁目1番地 TEL(076)237-8211)

○一般演題は1題7分以内で御講演下さい。

討論時間は3分です。

○プロジェクターは1台のみ用意します。スライドは原則として10枚以内とします。

○全て個人会員ですので、入会希望の方は、当日受付にて改めて入会の手続きをお取り下さい。年会費は下記の通りです。なお、当日出席できない方で入会希望の方は、下記の事務局までお申し込み下さい。多数の入会をお願いいたします。

年会費 医 師 1,000円

医師以外 500円

事務局 〒920-8641 金沢市宝町13番1号

金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学内

TEL (076) 265-2275

e-mail: 3ken@med3.m.kanazawa-u.ac.jp

○本地方会では、平成11年4月から下記のように日本血液学会認定医更新の際の点数が認められました。

参加 2点、発表(筆頭) 5点、発表(その他) 2点

14：00 開 会 の 辞

福井県立病院内科 山 崎 義 龜 與

14：00 座 長 石川県立中央病院血液免疫内科 山 口 正 木

1. 妊娠中期に発症したDIC合併急性骨髄性白血病症例（22歳、女性）
金沢大学細胞移植学 前川 実生、水谷 朋恵、山崎 雅英、
石山 謙、奥村 廣和、中尾 眞二

妊娠23週で判明したAML症例。発症時著しい線溶活性化をともなうDICを併発していた。
妊娠中の白血病・DIC治療について考察する。

2. 高齢者男性に発症しSLEに続発したHPSの1例（83歳、男性）
国立療養所敦賀病院内科 井上 仁、村上 善基、十亀 義生、
中西 正教、見附 保彦、竹内美紀子

骨髄像と脾臓の病理所見よりHPSを考えたが、発熱、LDHの上昇などの所見が存在せず、
HPSの診断に問題はないか。HPSだとするとその原因は何か。

3. 黒部市民病院における同種造血幹細胞移植の治療成績
黒部市民病院内科 高松 秀行、山内 博正、高桜 英輔
金沢大学細胞移植学 高見 昭良

11例の移植を行い、good risk群の無病生存率100%、high risk群の無病生存率40%であつた。

4. 健康管理医の立場から診た血液疾患
NTT西日本北陸健康管理センター 北尾 武

NTT健康管理センターでは(1)血液疾患患者の職場環境整備(2)集団としての血液検査評価、
赤血球増多症、白血球増多症、血小板減少症などの管理指導を行っている。

5. Blastic NK-cell lymphoma の1例 (57歳、男性)

石川県立中央病院血液免疫内科 山口 正木、戸来 依子、飯田 恵、
上田 幹夫

皮膚腫瘍で発症。臨床所見・検査結果は典型的。まれな疾患であり、診断・治療につき検討したい。

6. 貧血と白血球減少を認め、再生不良性貧血との鑑別が問題となった1例 (70歳、女性)

市立砺波総合病院内科 又野 禎也、佐藤 重彦、杉本 立甫
同 臨床病理科 寺畑信太郎
金沢大学細胞移植学 小林 和美

小球性貧血と白血球減少にて紹介。再生不良性貧血を疑ったが、抗核抗体が高値にてプレドニゾロンを使用し、良好な効果を得た。抗顆粒球抗体は陽性。

7. 21年間にわたり多種の免疫抑制療法を施行した pure red cell aplasia (死亡時59歳、男性)

福井医科大学第一内科 高木 和貴、河合 泰一、木下 圭一、
山内 高広、吉田 明、岩崎 博道、
上田 孝典
福井医科大学輸血部 浦崎 芳正
福井赤十字病院内科 今村 信
国立療養所北潟病院内科 津谷 寛

サイクロスポリン不応になった後に施行された免疫抑制療法について報告する。

8. 広範な皮下出血にて発症した第Ⅷ因子インヒビター例 (71歳、女性)

福井県立病院内科 清水 信繁、羽場 利博、山崎義亀與

突然発症の広範囲な皮下出血及び四肢の腫脹をきたして来院。APTTの著明な延長、交叉混合試験にて阻害を認め、またFⅧの低下、FⅧインヒビターの存在を確認した。明らかな基礎疾患や薬剤の使用歴は認めなかった。

9. 診断困難であった Burkitt type ALL (L3) (27歳、男性)

富山医科薬科大学第三内科学	和田 暁法、宮園 卓宜、草場亜矢子、
	新敷 吉成、江幡 和美、村上 純、
	加藤 勤、渡辺 明治
富山医科薬科大学第一病理学	石澤 伸、高野 康雄

非定型的病理像を呈した Burkitt type ALL (L3) に対し化学療法施行し奏効した一例。

10. 急激な臨床経過をとった hypereosinophilia 例 (75歳、女性)

国立金沢病院内科	吉尾 伸之、周藤 英将、池ヶ谷論史、
	能登 裕、木田 寛

Chronic eosinophilic leukemia の crisis を考える。診断につき討議希望。

11. 中等量 ara-C 療法後 MRSA による筋肉内膿瘍を発症した急性骨髄性白血病 (51歳、男性)

金沢医科大学血液免疫内科	大山 啓太、福島 俊洋、田上あさ子、
	山田 真善、野村 祐介、下山久美子、
	唐澤 博美、河南 崇典、正木 康史、
	川端 浩、小川 法良、和野 雅治、
	廣瀬 優子、菅井 進
同 整形外科	西野 暢

高度の骨髄抑制期に MRSA 敗血症とともに発症、好中球数回復後も発熱続き、画像診断が診断確定に有用であった。比較的まれな合併症と思われ、その発症機序、診断、治療につき討議希望。

15：50

座 長

金沢医科大学血液免疫内科

和 野 雅 治

12. 当院における血液悪性腫瘍患者の感染症についての検討

福井赤十字病院内科

藤田 晴之、齊藤 誠司、小笠原美華、

神谷 健一、豊岡 重剛

血液悪性腫瘍患者における感染症調査を行った。重篤な症例ではグラム陽性菌の感染が多く認められた。

13. Auto-PBSCT後に皮膚と肝臓にGVHD所見を認めた一例（67歳、女性）

富山県立中央病院内科

大畑 欣也、石山 謙、彼谷 裕康、

吉田 喬

DLBL, CS IV, IPI-highに対するAuto PBSCT併用化学療法後に皮膚、肝生検にてGVHDの所見が認められた。

14. 当院における難治性多発性骨髄腫に対するThalidomideの治療成績

NTT西日本金沢病院内科

小谷 岳春、泉谷 麻子、高松 博幸、

齋藤 正典

金沢大学細胞移植学

奥村 廣和

Thalidomideを導入するタイミング、日本人におけるThalidomideの至適投与量、化学療法との併用効果について討議したい。

16：20 総 会

16：40 教 育 講 演
司 会 福井県立病院内科 山 崎 義 亀 與

「高齢者悪性リンパ腫の治療」
東京都老人医療センター血液科 森 眞由美

17：40 閉 会 の 辞
福井県立病院内科 山 崎 義 亀 與